

研究者として大切なこと

生命体工学研究科生体機能専攻M2 内廣 啓太



はじめに

2012年7月23日から5日間、アメリカのカルフォルニア州ロングビーチで開催された2nd Global Conference on Microwave Energy Applications (2nd GCMEA)に参加しました。研究テーマである「マイクロ波促進有機反応の基質と溶媒の関連性」についてポスター発表をしました。

憧れのアメリカに行けるといふ期待と自分の英語力に一抹の不安を抱きながら、飛行機に乗り込みました。福岡からロサンゼルス国際空港まで、計12時間にもおよぶフライトに心身ともに疲れしました。到着後、ゲート

を抜けた先には別世界が広がっていました。巨大な建築物、巨大な人々、巨大なハンバーガー、何もかもが新鮮（巨大）で刺激的でした。

ポスター発表

25日にはポスター発表をしました。前日に綿密な練習をしていたため、研究の本質を上手く伝えることができたと思います。しかし、ネイティブの英語が上手く聞き取れず、質疑応答には四苦八苦しました。ポスター発表の間、東北地方太平洋沖地震についての質問も多く受けました。この国際学会の第1回目は滋賀県大津市で開催され、日本に訪れたことがある人も多く大変心配している様子でした。地震の被害だけでなく、今後の日本のエネルギー事情や原子力への依存などの質問もありました。自分の身内は震災の被害を受けていません。そのためか、原発問題など深く考えたことがありませんでした。

多くの研究者達に励まされたと同時に、この震災のことをどこか他人事のように感じていた自分に腹が立ちました。自分はまだ学生ですが、研究者という自覚があります。研究者は自分の研究だけをしていれば良いわけではありません。社会に貢献するために研究しているのです。自分は研究者として最も大切にすべきことを忘れていたようです。日本を離れ、各国の研究者や現地の人たちと接する内に、自分を客観的に見ることができました。自分は研究者として、何ができるのか。正直にいうと、まだわかりません。しかし、今回の国際学会で研究者として大切なことに気付かされました。このことを忘れず、精進していこうと肝に銘じました。

晩餐会にて

26日の夜に晩餐会が開かれました。会場は豪華客船であり、大変おいしい食事とワインをいただきました。セレブ気分を味わえたと思います。この晩餐会は各受賞者の発表も兼ねていました。前日の練習の成果か、熱意が伝わったのか、分かりませんが、最優秀学生ポスター賞を受賞し

ました。受賞後にスピーチの機会を与えてもらいました。その際に、多くの参加者が震災について関心や同情を示してくれたことに、日本人として感謝の言葉と、復興への強い思いを述べることができました。

最後に

今回の国際学会を通じて、研究者として大切なことに気付くことができました。このような貴重な経験をさせていただきありがとうございます。奨学金を援助していただきました明専会および指導していただきました大内将吉先生には厚く御礼申し上げます。

(平成24年10月記)



授賞式でのスピーチ